

谷地域むらづくりビジョン

**自然**に学べ、自然と**遊べ**  
**子ども**が育つ **元気な**田舎  
” **谷むら** ”



令和4年4月



## もくじ

1. 谷地域について.....	1
2. 谷小学校、谷幼稚園について.....	4
3. 谷地域の人口（平成31年3月31日時点）.....	6
4. 住民アンケートからみえるもの.....	9
5. 谷地域のむらづくりのテーマ.....	14
6. 谷むらづくり行動計画.....	15
7. 各取組の具体的内容 前期5年～.....	19
8. 各取組の具体的内容 後期5年～.....	29
9. 活動体制.....	33

表紙写真：白岳神社本宮より谷小学校を望む



# 1. 谷地域について

由布市挾間町の南西部に位置する谷地域は、由布市を貫く一級河川である大分川を北限として、東は大分市野津原、西は由布市庄内町、南は竹田市に接している中山間地域です。

谷地域の南端には妙音山（標高 577.5m）が位置し、そこから大分川にかけて 200～300m程度の小山が点在し、その山と山の間、集落（自治区）が点在しています。

現在こそ、農業の盛んな地域ですが、かつてはかんがい用水に困窮する地域でした。そのため、谷の各集落には人々が五穀豊穡を願うための神社が存在しています。

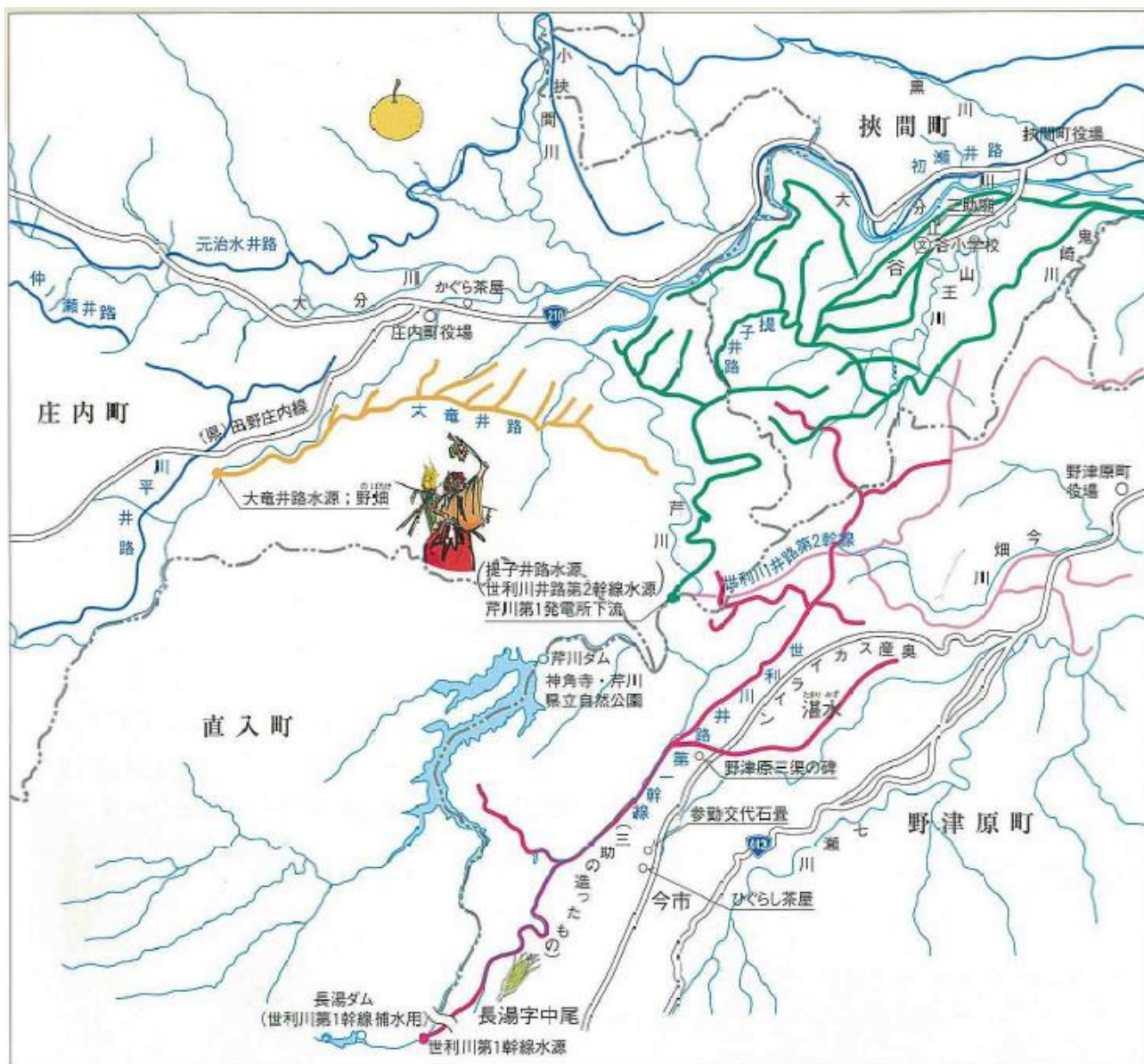
<谷地域全域と自治区>



※航空写真は由布市役所所有地図を使用、自治区界は目安です。

江戸時代初期の1661（寛文元）年に谷村で生まれた「工藤三助」が郷土の偉人として、現在も語り継がれています。工藤三助は、熊本、大分の地で農業に欠かせない水を運ぶための井路開発に生涯をささげました。

現在も谷地域の農業用水は工藤三助が晩年に手掛けた「提子井路」<sup>ひさご</sup>が活用されています。（地図中 —— が提子井路）



（出典：大分県「農業水利偉人伝 工藤三助」）

谷地域は、大分県の中核である大分市や別府市に近く、通勤エリアとしても検討できる場所に位置しています。

さらに近年は、久住や長湯方面へ向かう車の交通量が増えている道路もあります。



オープンストリートマップ <https://openstreetmap.org>

## 2. 谷小学校、谷幼稚園について

由布市立谷小学校は、平成 26 年に開校 100 周年を迎えました。平成 29 年度より谷幼稚園とともに小規模特認校（園）となり、通学通園区域外からの入学（園）・転学（園）が認められています。

規模の小さい学校だからこそできる以下の特色を掲げ、谷地域の豊かな自然や地域との連携の中で、子どもたちの生きる力を育てています。

谷小学校の存在は、谷地域の活動の多様さに直接的につながっています。

### <谷小学校の特色ある教育活動>

#### 1. 自然や地域の教育力が豊かな環境の下での「知・徳・体」のバランスのとれた子どもの育成

谷小学校校区は、その名が示すように、いくつかの谷に沿って集落が点在する農村地帯で、多くは兼業農家である。近くには有名な大將軍神社・白岳神社、工藤三助さんが造った「提子井路」等がある。自然に囲まれた学校は、学習する場としても最適である。また、休み時間や放課後は子どもたちが元気に運動場で遊ぶ姿も見られる。

また、地域や保護者が積極的に授業や行事に参加してくれるおかげで、外部の人との交流も盛んで、教育熱心な地域である。これらの影響もあり、元気で明るく意欲的な子どもが多い。

#### 2. 少人数の利点を生かした個に応じたきめ細かい指導

本校は、1クラス10名前後の小規模校である。授業では、「一人ひとりが活躍する場」「共感的人間関係を育む場」を意識し、全員が「意欲的に学ぶ子どもの育成」を目指している。支援教員も授業に入り、個に応じた指導を心がけている。行事等では、年間を通して全員が多くのことを経験できるよう意識し、発表等の場を設定するようにしている。



### 3. 幼稚園・小学校連携教育

谷幼稚園・谷小学校は同じ敷地内に併設されている。「幼小連携」の教育課程を組むことにより、「幼小8年制」を意識した教育を行っている。始業式・終業式・修了式、谷っ子大相撲大会、芋作り、秋季大運動会、ふれあい PTA 等行事を一緒に実施したり、小学校との交流学习を行ったりすることにより、小一ギャップ解消にもつながり、保護者も安心して入学させられるという特長がある。運動場で一緒に遊んだり、一緒に下校したりする姿も見られる。

### 4. 異年齢集団による「縦割り」教育の実施

「縦割り班活動」を実施。リレー、読書、遊び、芋作り、折り鶴、美化集会等6年生がリーダーとなり、下学年のお世話をする。また、体育や音楽、総合的な学習の時間等では、低学年・中学年・高学年がそれぞれ合同で授業を行うことも多い。異年齢集団の活動を積極的に取り入れることにより、先輩・後輩の良好な関係を築くとともに、人との関わり方を身に付けることをねらいとしている。

出典：谷小学校ホームページより

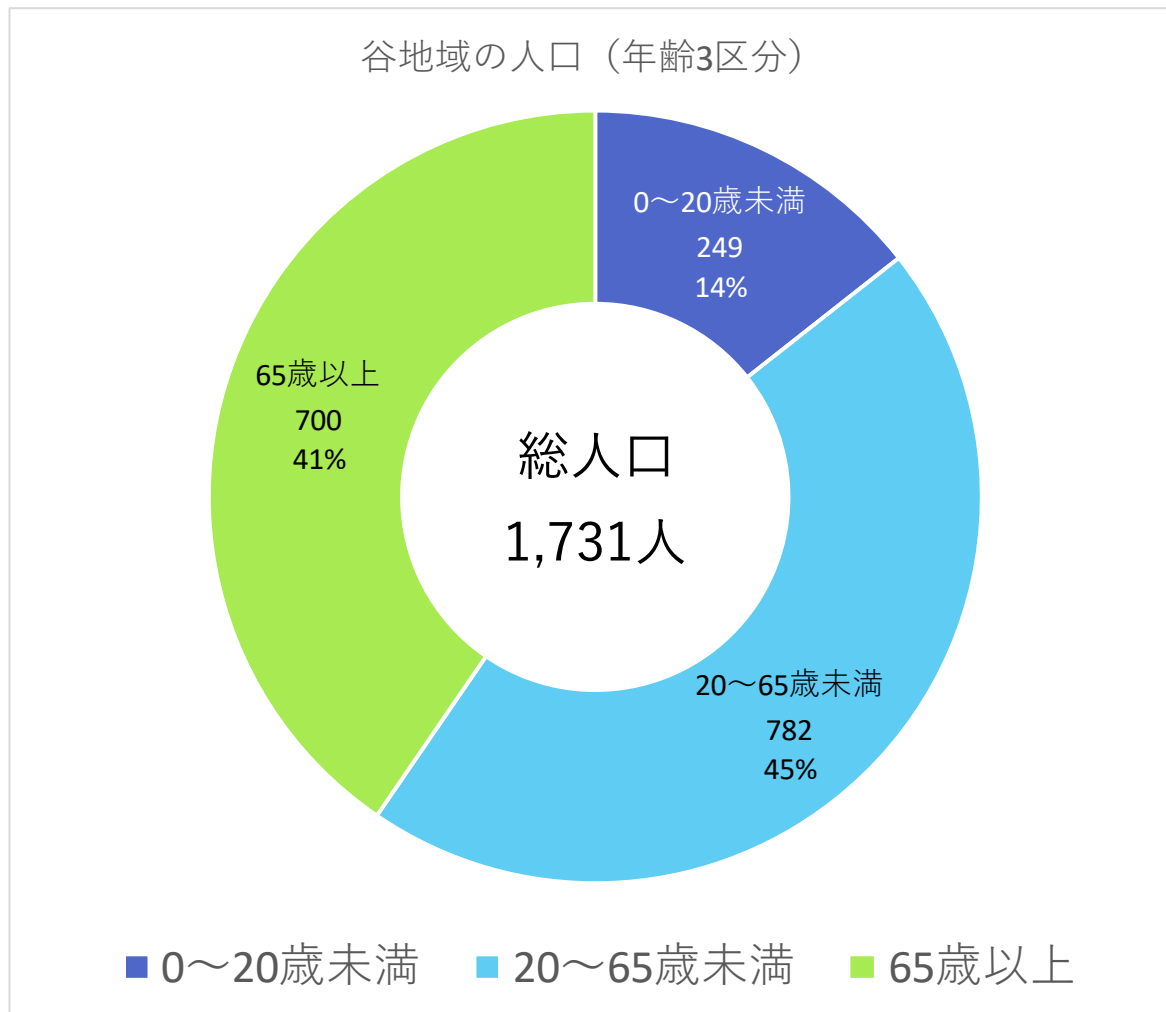


<桜が満開の谷小学校の裏>

### 3. 谷地域の人口（平成 31 年 3 月 31 日時点）

谷地域の人口は全体で約 1,700 人です。

20 歳未満の人口は全体の 14%、20 歳～65 歳の生産年齢が 45% を占めています。65 歳以上の高齢者は 41% となっています。

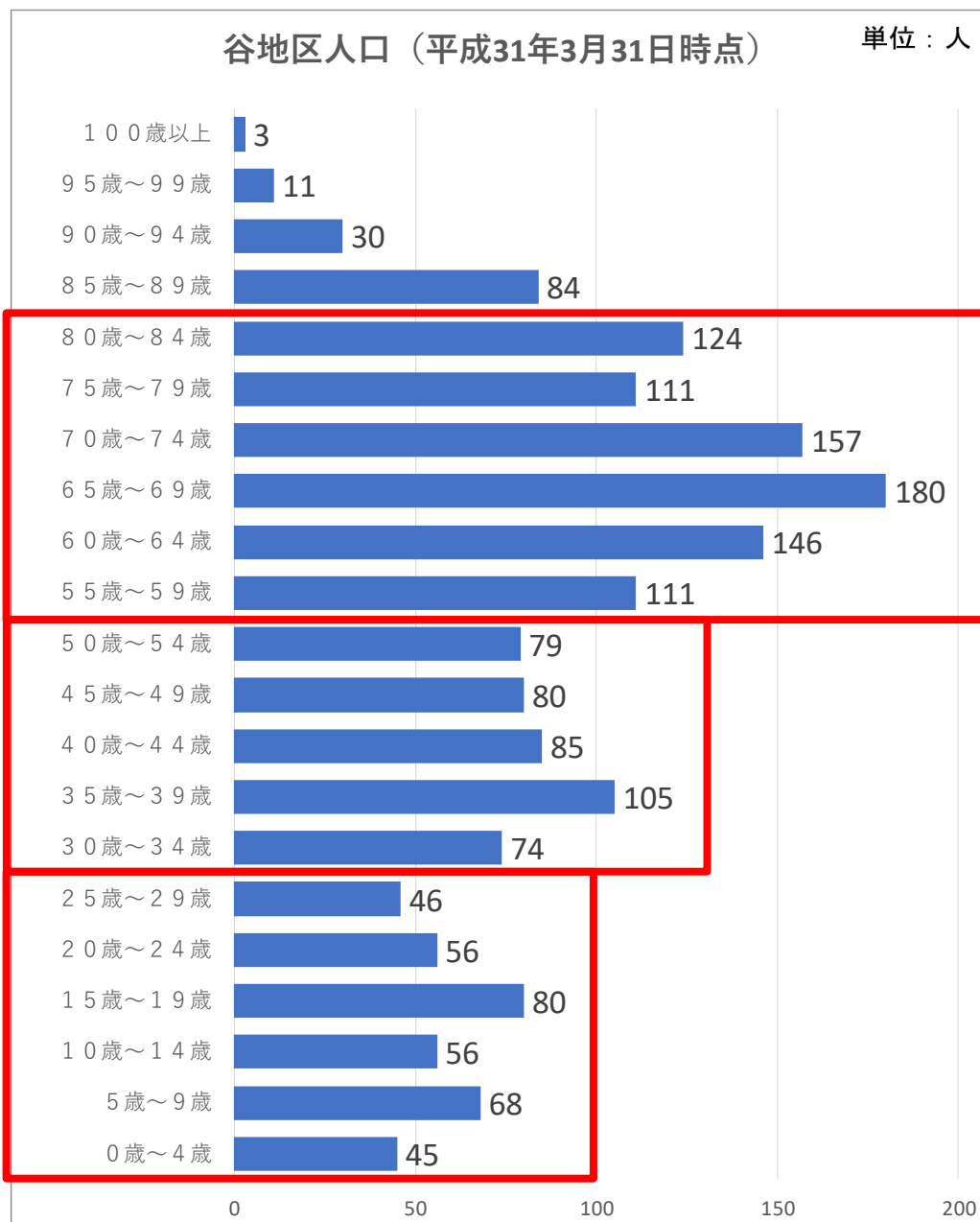


### <谷地域 人口ピラミッド>

5歳きざみで人口をみると、年代が低いほど人口が少ない、逆三角形のピラミッドになっており、大きく3つの区分に分けることができます。

55歳～84歳の代では、5歳ごとの区分で100～180人で、人口が多いことがわかります。その下の世代となる30歳～55歳未満では、80人前後と100人を切り、30歳未満では50人前後となっています。

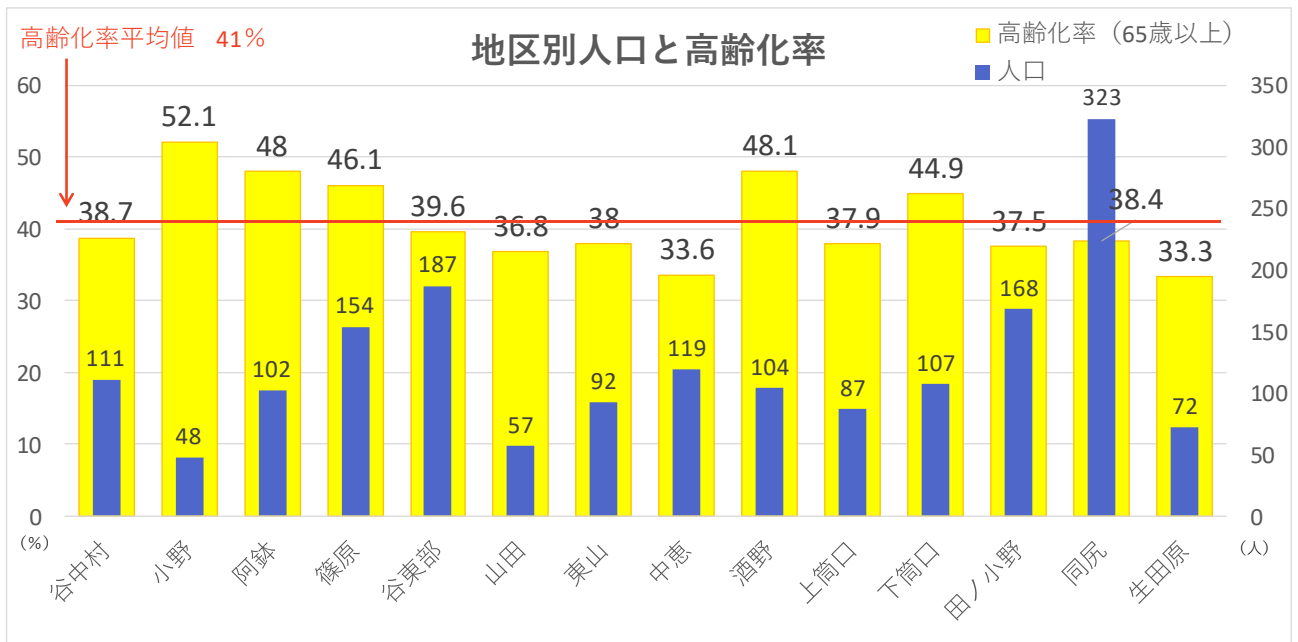
特にこれから子どもを産み育てる年代の人数が減少しています。



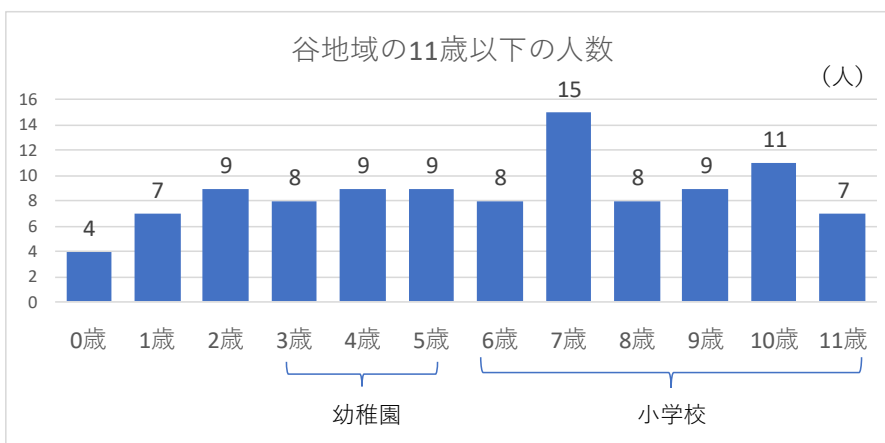
### <自治区別の人口と高齢化率>

谷地域全体の高齢化率は41%（地区別高齢化率の平均値）です。

自治区別にみると、高齢化率が平均以上の自治区が5地区あります。なかでも高齢化率が高く人口が少ない自治区（小野、阿鉢、酒野、下筒口）は、今後の自治区運営や農地の維持などに特に課題が出てくることが予想されます。



### <谷地区の11歳以下の人口（平成31年3月末時点）>



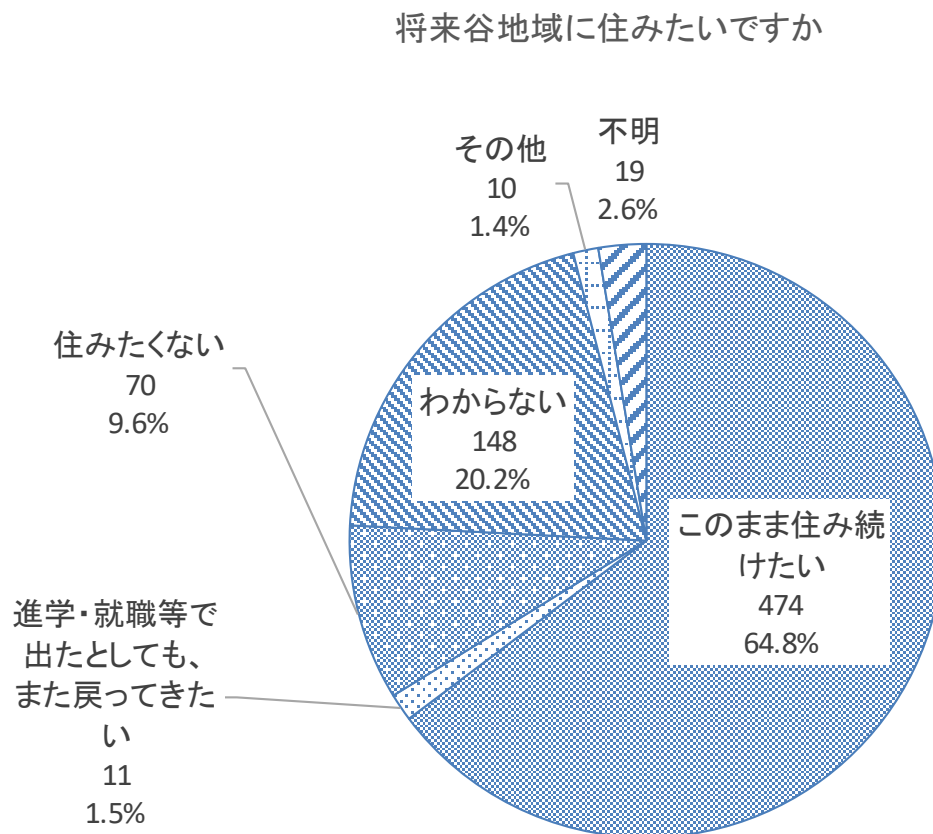
年齢	人数	学年等
0歳	4人	
1歳	7人	
2歳	9人	
3歳	8人	幼稚園（年少）
4歳	9人	幼稚園（年少）
5歳	9人	幼稚園（年少）
6歳	8人	小学1年生
7歳	15人	小学2年生
8歳	8人	小学3年生
9歳	9人	小学4年生
10歳	11人	小学5年生
11歳	7人	小学6年生

谷地区の小学生以下の人数は、平成31年度末時点で各学年次で10人前後で推移していますが、0歳の人数がすでに4人と少ないため、数年後の小学校人数の減少が懸念されます。

## 4. 住民アンケートからみえるもの

2019（平成31）年1月～2月にかけて、谷地域に住んでいる中学生以上の方にアンケートをお願いし、対象となる1,572人のうち738人が回答しました。

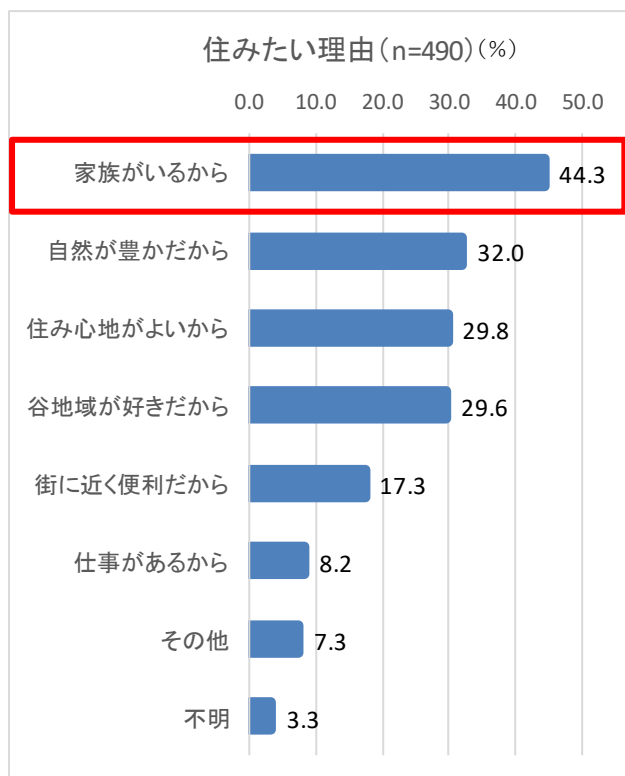
### 【将来、谷地域に住みたいかどうかについて】



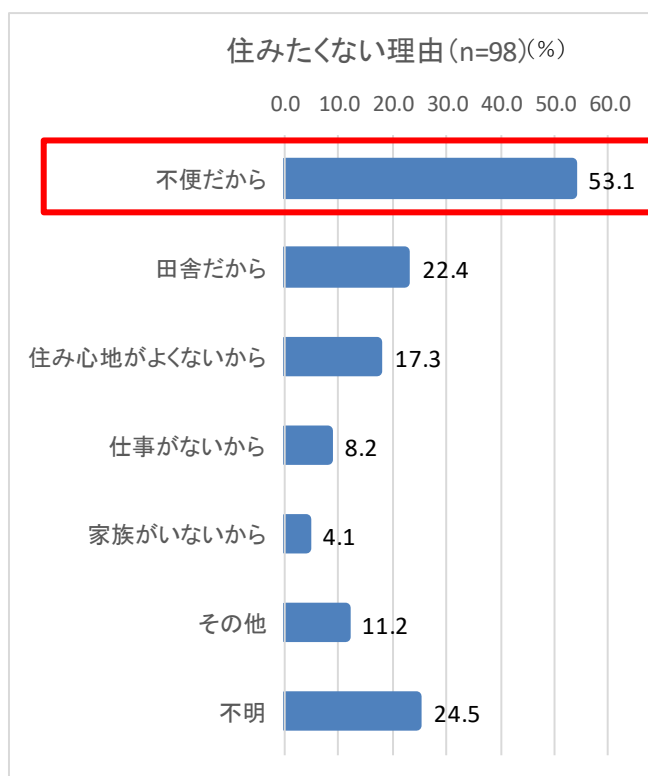
○年代別で分析をしてみると、10～20歳代の若い世代では「住みたい」という明確な意思表示は少なく、「わからない」との回答が多い傾向にありました。また他の年代よりも「住みたくない」と回答した割合が高くなっていました。

○若年層に対する地域への愛着や住み続けられる環境づくり（仕事づくり）が求められます。

## 【「住みたい」理由（複数回答）】



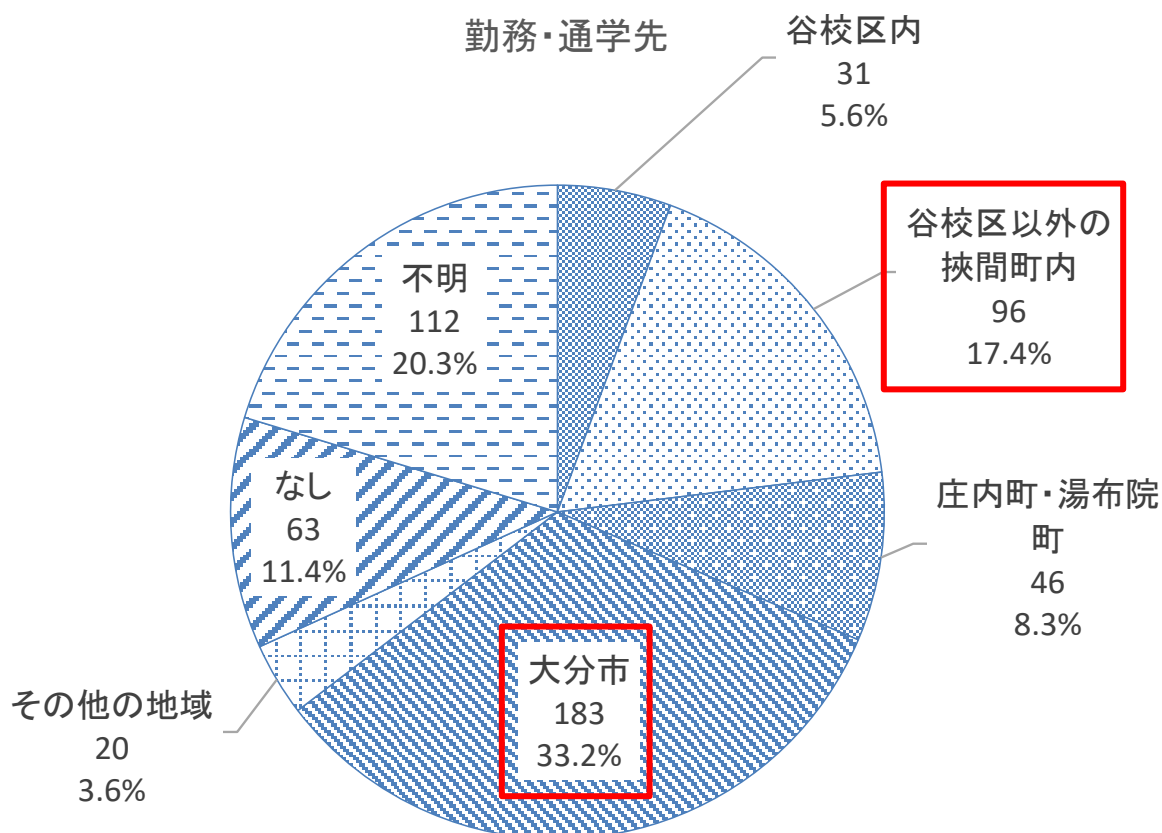
## 【「住みたくない」理由（複数回答）】



○住みたい理由の最も多い回答が「家族がいるから」となっていました。「住みたくない理由」の最も多い回答は「不便だから」となっていました。

○年代別で分析をしてみると、30～50歳代にとっては、谷地域は住み心地の良い地域であることがわかります。一方で住みたくない理由として「不便だから」と回答した人も50歳以下の若い世代でした。10～20歳代は「仕事がない」「田舎だから」といった理由で「住みたくない」と回答する人が多くなっていました。

## 【通勤・通学先】



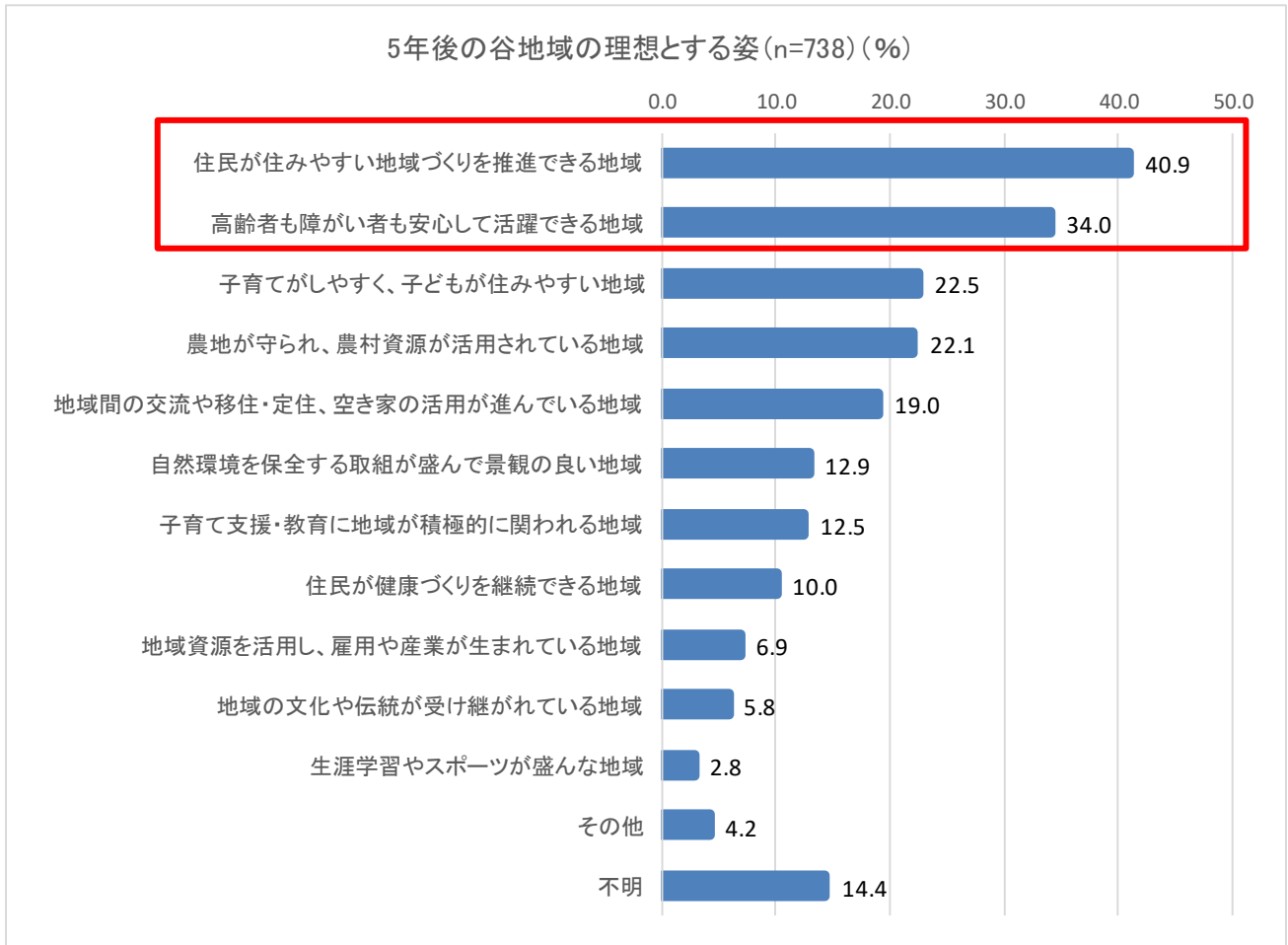
○若い世代は進学や就職等で地域を出ていく可能性が大いにあります。一方で、谷地域の立地は大分市に近く、アンケートでも大分市へ通勤しているという回答が全体の3割となっていました。

○30～50歳代の子育て世代にとっては谷地域の環境は住みやすいという意見が多くみられることから、住みやすさ、自然環境の魅力を内外にPRすることによる人口減少への対策の可能性がみえます。

## 【5年後の谷地域の理想とする姿について】

「住民が住みやすい地域づくりを推進できる地域」「高齢者も障がい者も安心して活躍できる地域」の2つの項目が高い結果となっていました。

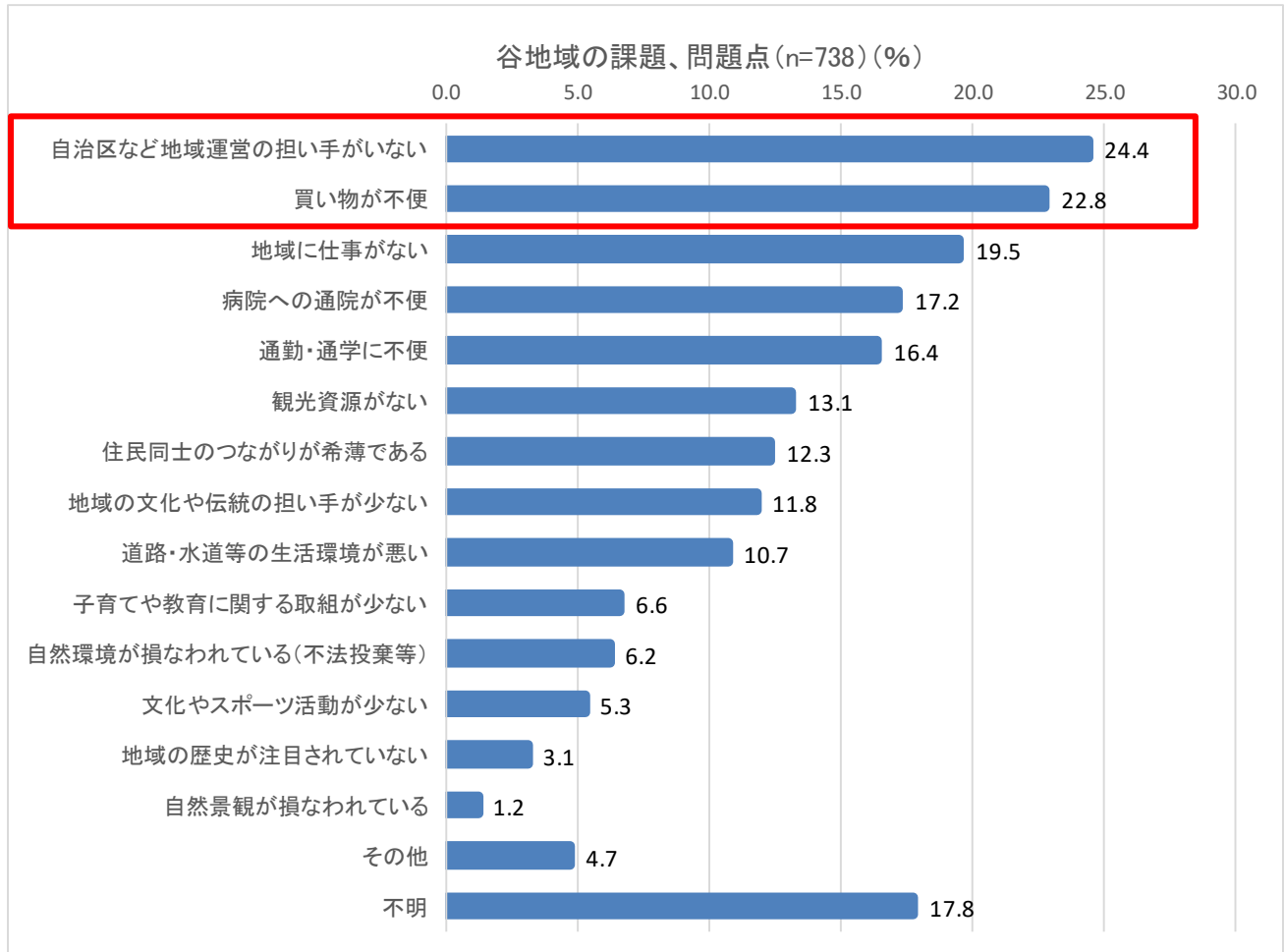
次いで「子育てがしやすく、子どもが住みやすい地域」「農地が守られ、農村資源が活用されている地域」となっています。





## 【谷地域の課題、問題点について】

「自治区など地域運営の担い手がない」が最も高く、次いで「買い物が不便」でした。他に高いものとして「地域に仕事がない」「病院への通院が不便」「通勤・通学が不便」でした。



## 5. 谷地域のむらづくりのテーマ

谷地域のむらづくりは以下をテーマとして取り組みます。

**自然**に学べ、**自然と遊べ**  
**子ども**が育つ **元気な田舎**  
” **谷むら** ”

“谷むら”には、100年続く谷小学校があります。

地域や保護者の積極的なかわりによって、外部との交流も多く、子どもたちは元気にのびのびと“谷むら”の自然豊かな環境の中で育っています。

子どもたちの声が響く“谷むら”は、見晴らしの良い妙音山に守られ、白岳神社や大將軍神社など由緒ある寺社がたくさんあります。先人の知恵と伝統が住民によって語り継がれています。

“谷むら”は、大分市から近く、通勤・通学も便利です。魅力的な暮らしの環境がそろっています。子どもたちは元気にあいさつをして学校へ行き、地域の方々との交流や学びを深めます。

農業が盛んで、農地にはたくさんの野菜が実っています。“谷むら”の産品で商品をつくり、むらづくりの財源が生まれています。若い農業者が移住し、退職しても地域に仕事があります。人々は、“谷むら”の良さを外に向けて発信し、ますます元気なむらになっています。

お互い元気に明るく見守りながら生きることができるむら、“谷むら”です。

## 6. 谷むらづくり行動計画

“谷むら”づくりでは、以下の取組を行います。

広報

自主財源の確保

見守り活動

交流促進

移住促進

### 広報

豊かな  
谷むら  
世界へ発信

- 谷むらの活動や暮らしを写真等で紹介し、日本の農村の四季や取組を世界へ発信します。
- 谷むらの豊かな農村風景は、懐かしさを呼び起こします。住んでいる人も一度出た人も、谷むらの良さをふたたび知ることができます。
- 世界に向けて発信した情報は谷むらの記録や暮らしの記憶としてもたくわえられます。

### 自主財源の確保

生かせ故郷  
の里山、  
活力あふれる  
谷むら

- むらづくりには、運営のための資金が必要です。
- 谷むらにある、耕作放棄地や農作物からの副産物などを利用し、谷むらブランドを生み出します。
- 地域に仕事生まれ、農地が美しくよみがえります。
- 子どもたちが自然の中で元気に遊べる場所をつくります。週末に家族で訪れ、元気を取り戻せる場所になります。人が集まることで、地域にお金が巡ります。

## 見守り 活動

安心して  
暮らせる  
谷むら

● 高齢になっても、安心して暮らすことができる持続可能な仕組みをつくります。

● 一人暮らしの高齢者の日常生活を支えあえるよう、見守りや暮らしの中で必要な移動など、地域で支えあえる仕組みを模索します。

## 交流 促進

子どもの感性が  
光る谷むら

● 定期的なスポーツ大会の開催や谷小学校との連携事業を行います。

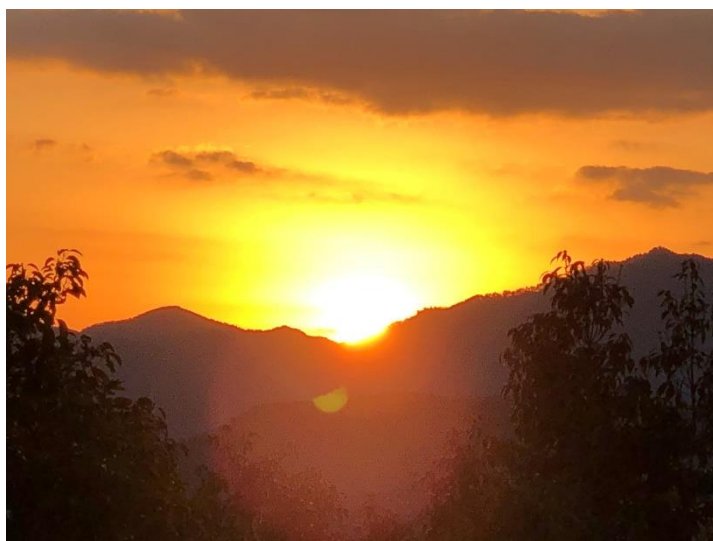
● 谷地域に受け継がれている歴史や、伝統文化、お祭りなど、“谷むら全体”として取り組み、次の世代に受け継いでいきます。

## 移住 促進

住んで実感  
便利な田舎  
谷むら

● 市役所が取り組む移住定住の事業との連携を行います。

● 谷むらが大事にしている地域のありかたに共感する住民が増え、子どもたちがのびのびと育つ地域になっています。



<大將軍神社からの初日の出>

“谷むら”づくりの活動は、4つの部会に分かれて行います。

部会	主な取組内容
むらづくり部会	福祉・安全安心・むらづくり、移住定住、移動支援
広報部会	広報活動（新聞づくり、SNS）
子育て・共育・文化部会	谷小学校との連携、社会教育、歴史文化、伝統、祭り
環境・保全部会	農地保全、環境保全、景観整備、自然体験活動



<野焼きの風景>

各部会は、以下の取組を行います。

取組	部会	具体的な取組	時期
広報	広報	広報活動	前期 5年
自主 財源の 確保	環境 ・ 保全	耕作放棄地の有効活用	前期 5年
	子育て・ 共育・文化	妙音山公園で 冒険の森アスレチックづくり	後期 5年
	環境・保全	景観保全活動	後期 5年
見守り 活動	むらづくり	ひとり暮らし見守り隊・ 子どもの見守り隊	前期 5年
		高齢者の移動支援	後期 5年
		防犯カメラ・防犯灯(街灯)設置	後期 5年
交流 促進	子育て・共 育・文化	谷小学校との連携事業	前期 5年
		体育大会の開催 (グラウンドゴルフ大会)	前期 5年
		地域の伝統文化(祭、行事)の 復活、参加	前期 5年
移住促進	むらづくり	谷に住みたい！移住支援	前期 5年

## 7. 各取組の具体的内容 前期5年～

### ■ 広報

部会	広報部会
取組	広報活動
具体的取組	<p>①情報発信ができるチームづくり、環境整備を行う。</p> <p>②誰に、何を伝えるか、情報が届いた人に、どのようなことを期待するか等、広報戦略を明確にする。</p> <p>③取組内容やイベント情報の住民への発信を行う。</p> <p>④ホームページとInstagram（写真）を活用した外部への情報発信により移住定住につなげる。</p> <p>⑤住みたくなる、遊びに来たくなる谷むらのファンづくり。</p>
目標	<p><b>【豊かな谷むら、世界へ発信】</b></p> <p>谷むらの豊かな自然を写真で切り取り、日本の農村の暮らしを世界へ発信している。情報は記録にもなり、暮らしの記憶として活動が記録されている。</p>
1年目	<p>各部会に広報部会と連携する担当を設ける。</p> <p>検討会議開催（媒体検討、広報スタート）、分析。</p> <p>広報ができる環境整備（パソコン、HPなど）。</p> <p>広報誌を1回以上企画・作成・配布する。</p>
2年目	発信（紙、電子）、分析
3年目	発信（紙、電子）、分析
4年目	谷むらファンづくりのしくみ検討・試行
5年目	谷むらファン企画実施

## 備考

視察が訪れるむらになる、住人が誇りに思えるむら。すべての活動に対して効果的な広報活動を考える。内部だけではなく、外部へ発信し、反応と交流を得ることで、自主財源への還元、移住者の確保等、すべての活動への波及効果を倍増させる役割を担う。

情報収集を明確化する（写真、動画、移住者などの住民の声、行事）。

情報発信や広報活動ができる環境を整備する（パソコン、プリンター、データ保存方法、HPサーバー等）。



<美しく整備された田んぼと実りの秋>



## ■ 自主財源の確保

部会	環境・保全部会
取組	耕作放棄地の有効活用
具体的 取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>①耕作放棄地の調査選定</li> <li>②委譲・移住の推進</li> <li>③農業法人との連携</li> <li>④特産品品目選定、植え付け、生産</li> <li>⑤加工、販路開拓、販売</li> <li>⑥谷小学校やわかばの郷と連携した農業体験</li> <li>⑦観光農業の推進（〇〇狩り、貸し農園、体験農業、農家民泊）</li> </ul>
目標	<p><b>【生かせ故郷の里山、活力あふれる谷むら】</b></p> <p>耕作放棄地が減少し、きれいに整備された農地には特産品の作物が植えられており、「谷むら」ブランドの商品が生まれている。後継者が戻り、新規就農者が増加している。品目選定を地域一体となって行い、安定した生産ができています。販売による売り上げにより、協議会の自主財源が確保できている。</p>
1年目	検討会議開催／耕作放棄地の調査選定／品目選定・販路検討
2年目	収量確認／品目選定・販路検討／テスト植付
3年目	収量確認／品目選定・販路検討／テスト植付
4年目	販路展開／生産体制整備／就農支援
5年目	販路展開／生産体制整備／就農支援

<b>備考</b>	耕作放棄地を増やさない、一定規模の作付けを目指し収量の確保、新規就農や高齢者の仕事づくり（収入の確保）、谷むらづくり協議会の自主財源確保。
-----------	---

## ■見守り活動

部会	むらづくり部会
取組	ひとり暮らし見守り隊・子どもの見守り隊
具体的 取組	<p>①御用聞きサービスの仕組みづくりの検討 一人暮らしの見守り隊、生活支援サービスやボランティア活動などの検討。</p> <p>②特殊詐欺防止活動 特殊詐欺についての勉強会、地区での声掛け、事案があれば迅速に共有できるネットワークづくり。</p> <p>③谷小学校児童の見守り活動 谷小学校に通う児童の見守り隊活動の検討・実施。</p>
目標	<p><b>【子ども・高齢者が安心して暮らせる谷むら】</b></p> <p>一人暮らしの高齢者の日常生活を支えあえるよう、持続可能な仕組みをつくる。 谷小学校児童が、安心・安全に通学できるよう、地域での見守り体制を整備する。</p>
1年目	検討会議開催、民生委員と連携した現状把握 (実施内容検討、メンバーの募集、活動計画作成)、各種見守り活動の開始、ネットワークづくり検討
2年目	各種見守り活動継続、勉強会の開催、ネットワーク運用
3年目	各種見守り活動継続、勉強会の開催、ネットワーク運用
4年目	各種見守り活動継続、勉強会の開催、ネットワーク運用
5年目	各種見守り活動継続、勉強会の開催、ネットワーク運用

## ■交流促進

部会	子育て・共育・文化部会
取組	谷小学校との連携事業
具体的 取組	①小学生と昔の遊び道具作り（社会福祉・施設との共生） ②谷小学校との農業体験（米・芋・シイタケ） ③挟間地域内小学生との交流
目標	【子どもの感性が光る谷むら】 小規模特認校としての強みを発揮し、他の地域ではできない教育を受けることができ、人気が高まっている。
1年目	既存活動を継続・昔の遊び道具づくり企画
2年目	既存活動を継続・昔の遊び道具づくり企画
3年目	既存活動を継続・昔の遊び道具づくり企画 挟間地域内小学生との交流
4年目	既存活動を継続・昔の遊び道具づくり企画 挟間地域内小学生との交流
5年目	既存活動を継続・昔の遊び道具づくり企画 挟間地域内小学生との交流
備考	谷小学校 OB 会との連携（美化活動年 2 回）、米作り 5 年生、シイタケの駒うち 4 年生※卒業時にシイタケ収穫

## ■交流促進

部会	子育て・共育・文化部会
具体的 取組	小学生から高齢者まで、 一緒に楽しむグラウンドゴルフ大会の開催
目標	<b>【子どもの感性が光る谷むら】</b> グラウンドゴルフ大会の開催で、住民の親睦を図っている。 世代間、移住者との交流や、婚活にもつながっている。
1年目	既存活動を継続・SNS等による外部へのPR
2年目	既存活動を継続・SNS等による外部へのPR
3年目	既存活動を継続・SNS等による外部へのPR
4年目	既存活動を継続・SNS等による外部へのPR
5年目	既存活動を継続・SNS等による外部へのPR

## ■交流促進

部会	子育て・共育・文化部会
取組	地域の伝統文化(祭、行事)の復活、参加
具体的 取組	①亥の子のPR、地区を超えた参加と実施 ②おせったいスタンプラリー（年2回） ③祭太鼓や笛等、谷地区に伝わる伝統の継承 ④谷地区に伝わる祭や行事を纏めた「谷むら年間行事表」の作成
目標	【子どもの感性が光る谷むら】 谷地区にある祭や行事が表に纏められ、住民の皆さんに知ってもらえている。また、伝統が受けつがれており、自治区を超えて実施することで運営負担の軽減、参加人数の増加につながっている。SNS等による広報の結果、参加者が増加している。
1年目	谷地区に伝わる祭や行事の実施状況の確認及び年間行事表の作成、広報活動 （亥の子・PRは広報部会と連携）
2年目	おせったいマップの企画・作成、実施、谷地区の祭や行事についての広報活動（広報部会と連携） （亥の子・PRは広報部会と連携）
3年目	おせったいマップの企画・作成、実施、谷地区の祭や行事についての広報活動（広報部会と連携） （亥の子・PRは広報部会と連携）
4年目	おせったいマップの企画・作成、実施、谷地区の祭や行事についての広報活動（広報部会と連携） （亥の子・PRは広報部会と連携）
5年目	おせったいマップの企画・作成、実施、谷地区の祭や行事についての広報活動（広報部会と連携） （亥の子・PRは広報部会と連携）

# ■移住促進

部会	むらづくり部会
取組	谷に住みたい！移住支援
具体的 取組	<p>①谷に住みたい人を受け入れる体制づくり 移住希望者への地域の紹介や空き家・農地紹介、地域住民と希望者と行政をつなぐ大切な役割を担う地域の受け入れ体制づくり。※チームの構築。</p> <p>②行政と連携した、Uターン、Iターン活動の推進 希望者への谷むらの紹介や、空き家バンクへの空き家登録促進など。</p> <p>③各部会と連携した子育て、福祉、住宅環境の充実 子育て世代が移住したくなるような、子育て環境や取組の活性化や福祉サービス、住宅環境の改善など、行政や部会の活動と積極的に連携をとりながら、移住定住の促進につながる取組と広報活動を積極的に展開する。</p>
目標	<p>【住んで実感、便利な田舎 谷むら】</p> <p>広報部会と連携し、「住んでみたい」と思ってもらえるような広報活動を展開している。市役所との連携がしっかりできており、移住希望者が定期的に谷むらに訪れている。地域行事に協力的である。</p>
1年目	<p>空き家の現状調査、各世帯への広報。 移住定住に成功している地域の事例調査。 由布市の移住支援センターとの連携のための体制づくり。</p>
2年目	<p>移住定住に成功している地域の事例調査。 空き家バンクの活用。空き家の現状調査、各世帯への広報。 行政との連携による広報活動。お試し住宅の企画・立案。</p>

3年目	空き家対策に関する各世帯への広報。 住環境の整備。行政との連携による広報活動。
4年目	空き家対策に関する各世帯への広報。住環境の整備。 行政との連携による広報活動。お試し住宅の運用開始。
5年目	空き家対策に関する各世帯への広報。視察の受け入れ。 住環境の整備。行政との連携による広報活動。
備考	団地造成（第2の中恵団地）



<由布岳、鶴見岳を望む>



## 8. 各取組の具体的内容 後期5年～

### ■見守り活動

部会	むらづくり部会
取組	高齢者の移動支援
具体的 取組	高齢者の買い物、通院対策 (NPO 自家用有償運送などの取組や、由布市コミュニティバスへの改善検討など)
目標	<b>【高齢者が安心して暮らせる谷むら】</b> 高齢になって免許を返納しても、日常生活を安心して送ることができる移動のしくみができている。

部会	むらづくり部会
取組	防犯カメラ・防犯灯(街灯)設置
具体的 取組	①防犯カメラ、防犯灯(街灯)が必要な場所を確認 ②設置するための財源調整 ③設置
目標	<b>【住んで実感、便利な田舎 谷むら】</b> 日常生活のなかで、通勤、通学や交通事故防止の取組を優先順位をつけて整備できている。

## ■自主財源の確保

部会	子育て・共育・文化部会
取組	妙音山公園で冒険の森 アスレチックづくり
具体的 取組	①妙音山公園の景観整備 ②地域内協議、チーム結成（行政機関、NPO、地権者との調整） ③広報活動、財源確保、他地域視察 ④アスレチックづくり
目標	<b>【子どもの感性が光る谷むら】</b> 絶景の山、妙音山を九州各地から子どもたちが集まる山にする。 地元の子どもたちも自慢できる場所になっている。

部会	環境・保全部会
取組	景観保全活動
具体的 取組	①フォトスポットの選定（道路、地域の名所、公園、寺社の整備） ②環境整備 ③インターネット（SNS）による発信
目標	<b>【豊かな自然にほっとする谷むら】</b> 歴史や文化と融合した、谷むらのすばらしい景観が人気になり、 たくさんの人が写真撮影や景色を見に訪れる。



<大將軍神社 春の大祭の様子>

＜各取組の具体的な取組と取組年度＞

取組	具体的取組	取組年度					
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
広報	①住民への発信	→	→	→	→	→	→
	②外部への発信（SNSの活用）	→	→	→	→	→	→
	③谷むらのファンづくり				→	→	→
自主財源の確保	①耕作放棄地の有効活用	→	→	→	→	→	→
	②妙音山公園で、冒険の森アスレチックづくり						→
	③景観保全活動						→
見守り活動	①ひとり暮らし見守り隊・子どもの見守り隊	→	→	→	→	→	→
	②高齢者の移動支援						→
	③防犯カメラ・防犯灯(街灯)設置						→
交流促進	①谷小学校との連携事業	→	→	→	→	→	→
	②体育大会の開催（グラウンドゴルフ大会）	→	→	→	→	→	→
	③地域の伝統文化（祭、行事）の復活、参加	→	→	→	→	→	→
移住促進	①谷に住みたい！移住支援	→	→	→	→	→	→

## 9. 活動体制

まちづくり協議会設立後の体制を記載します。

### 谷むらづくり協議会

